

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

【様式1】

市町村名	矢板市	地域の目指す姿(ビジョン、大目標)
所属名	幸齢課	相互理解と協働による支え合い
担当者名	大澤 英勝	安心と豊かさを実現する保健・福祉

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	第9期介護保険事業計画に記載の内容				R7年度(年度末実績)				
	大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	自己評価の理由	課題と対応策
矢板市	①自立支援・介護予防・重度化防止	①自立支援・介護予防・重度化防止	住み慣れた地域で要介護状態にならず、健康でいきいきと自立した生活を送るためには、日常生活を基本としながら健康維持・増進への情報提供や助言、疾病の早期発見を必要とする。	保健事業の充実	数値目標 (R6) / (R7) / (R8) ※以下同じ ○後期高齢者健康診査 受診者数 1,280人 / 1,320人 / 1,350人 人間ドック助成 105人 / 110人 / 115人 ○高齢者訪問看護指導 実施者延人数 450人 / 450人 / 450人 ○予防接種 インフルエンザ予防接種者数 5,820人 / 5,820人 / 5820人 肺炎球菌ワクチン接種者数 215人 / 215人 / 215人	○後期高齢者健康診査受診者数 1,592人 人間ドック助成者数 161人 ○高齢者訪問看護指導実施者延人数 434人 ○インフルエンザ予防接種者数 5,198人 肺炎球菌ワクチン接種者数 158人	◎	肺炎球菌ワクチン接種が6割未満の達成率であるものの、健康診査は目標達成、訪問看護指導及びインフルエンザ予防接種は80%以上の達成率であることから◎とした。	健康意識が高く、予防的な行動を積極的にとる方がいる一方、そうでない方も一定割合見られる。事前の予防、早期発見・早期治療で介護費用の縮減に資するよう、周知と意識づけを進めていく。 また、予防的な行動が一時的なもので終わらないように、継続的な自己管理を推進していく。
矢板市	①自立支援・介護予防・重度化防止	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が元気なうちから心身の状態の悪化を防ぎ、要介護状態にならず自立した生活が継続できるよう、介護予防の普及と啓発を図る必要がある。	介護予防の普及と啓発	○認知症予防普及啓発事業 認知機能簡易検査新規受検者率 20% / 25% / 30% 認知症予防教室開催回数(参加延人数) 32回(500人) / 32回(500人) / 32回(500人) ○シルバーサポーター養成 登録者数 45人 / 50人 / 55人 ○各種介護予防教室 いきいき体操教室開催回数(参加延人数) 60回(590人) / 65回(600人) / 70回(610人) 転倒予防教室開催回数(参加延人数) 8回(160人) / 8回(200人) / 8回(240人) ○介護予防把握事業 元気度チェック実施者数 3,500人 / 3,500人 / 3,500人	○認知機能簡易検査新規受検者率 25.1%＝新規受検者100人/総受検者数398人 認知症予防教室開催30回 参加延人数325人 ○シルバーサポーター登録者数47人 ○いきいき体操教室開催60回 参加延人数680人 ○いきいず体操教室46回 参加延人数1,394人 ○元気度チェック実施者数3,854人	◎	転倒予防教室を「いきいず体操教室」にリニューアルし、回数、参加延人数が大幅に増加した。それ以外の項目の達成率も概ね良好であることから◎とした。	上記保健事業と同様に、参加意識の高い方とそうでない方の差がみられることから、幅広く介護予防の意識づけを行っていく。 元気度チェックについては、得られた高齢者の現状のデータ分析に努め、健康状態等に課題がある方には積極的な相談、訪問、支援に努めるとともに、次の施策に反映していく。
矢板市	①自立支援・介護予防・重度化防止	①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備を同時に進める地域包括ケアシステムの実現に向けて地域ケア会議の充実を図る必要がある。	地域ケア会議の充実	○地域ケア個別会議 ○自立支援型地域ケア会議 開催回数 7回 / 7回 / 7回 ○地域包括ケア会議 全体会開催回数 1回 / 1回 / 2回 専門部会開催回数 2回 / 2回 / 2回	○地域ケア会議開催回数3回 ○自立支援型地域ケア会議開催回数6回 ○地域包括ケア会議 全体会開催回数1回 専門部会開催回数2回	○	会議開催回数は概ね目標どおりであるが、内容、効果についてはまだまだ改善の余地があると判断できることから	各会議体において様々な立場・職種の関係者が参加し、多様な地域課題、個々の事例の情報共有、意見交換、課題解決の検討を行っている。現状維持とせず、更なる会議開催の効果を求めていきたい。
矢板市	①自立支援・介護予防・重度化防止	②生活支援体制整備	第2層協議体(市内3か所)によって抽出された地域課題を第1層で全市的なレベルで地域資源を活用し介護予防と生活支援のためのサービスを開発する必要がある。	高齢者の生活支援体制の整備	○生活支援コーディネーターの配置 配置者数 4人 / 4人 / 4人 ○協議体の活動推進・連携強化	○生活支援コーディネーター配置者数 第1層1人 第2層3人 ○第2層に協議体を設置し、それぞれの協議体で地域課題の把握や地域資源の発掘を行った。 5月に3協議体合同で発表会を行い、情報の共有と意見交換を実施した。	◎	目標どおり生活支援コーディネーターを配置し、協議体の活動推進、連携強化を行っていることか	地域における課題について、地域資源及び地域の担い手発掘のステージから一歩前進させて、地域資源を活用して、地域で自主的に解決を図ることができるように自走自立を促進していく。
矢板市	①自立支援・介護予防・重度化防止	③認知症施策	認知症は、誰もがかかる可能性のある病気で予防や早期発見・治療が有効である。認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせるように、地域で支援する体制づくりが重要となっている。	認知症施策の推進	○認知症サポーターの養成・活動促進 養成者数 270人 / 270人 / 275人 ○認知症等による徘徊高齢者等の事前登録 新規登録者数(登録者合計) 10人(50人) / 10人(55人) / 10人(60人) ○認知症高齢者見守り声掛け模擬訓練 実施回数 1回 / 2回 / 3回 ○認知症カフェ等 設置箇所 3箇所 / 3箇所 / 3箇所	○認知症サポーター養成者数181人 ○徘徊高齢者等の新規登録10人(登録者合計45人) ○認知症高齢者見守り声掛け模擬訓練 2回 ○認知症カフェ設置箇所 3箇所	○	指標により60%～80%の達成のものもあることから○とした。	第10期高齢者プラン策定に併せて認知症施策推進計画を策定する。一般の方にも広く、認知症の方が特別ではなく一緒に日常生活を送ることについての理解を促進していく。 認知症高齢者の支援のためには、認知症についての理解が必要である。このことから認知症サポーター養成を継続するとともに見守り声掛け模擬訓練を継続して実施していく。 認知症高齢者やその家族の方と、地域の方や専門家との情報共有の場としての認知症カフェの設置を支援していく。

保険者名	第9期介護保険事業計画に記載の内容					R7年度(年度末実績)			
	大区分	中区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	自己評価の理由	課題と対応策
矢板市	②介護給付適正化		介護保険制度の持続可能性を維持しながら十分なサービスを確保していくため、介護給付費の適正化を推進する必要がある。	介護給付適正化主要3事業の実施	介護給付適正化主要3事業 (1)要介護認定の適正化 (2)ケアプランの点検 (3)医療情報との突合・縦覧点検を実施する。	○要介護認定の適正化 訪問調査票の事後点検を全件実施し、調査の質の向上を図った。 ○ケアプランの点検 ケアプランの抽出点検6件を実施するとともに、包括支援センターとの情報共有を実施した。 また、住宅改修、福祉用具の必要性、利用状況を確認し、適切な利用促進を図った。 ○医療情報との突合・縦覧点検 必要に応じて国保連データの点検を実施した。	○	介護給付適正化主要3事業についていずれも実施したが、必要に応じて対象を抽出して実施していることから、実施件数の改善(増加)の余地があることから○とした。	要介護認定の適正化については、経験豊富な認定調査員が実施しており、調査の質は安定していると考えている。 ケアプランの点検については、マンパワーの問題によりケアプラン点検及び現地調査の実施数を増やすことが難しい。 国保連データの点検については、必要に応じて実施した。 以上、介護給付適正化主要3事業の実施拡大の余地はあり、今後点検件数を増加させて介護給付の適正化を推進していく。